

レポート!

まちの縁側講座IN三輪地区

かわらばん

まちえんながの

第33号

11月1日(木) 発行
まちの縁側育みプロジェクトながの

長野市ボランティアセンター内
TEL 227-3707
FAX 224-1513



縁側講座当日では・・・

10月13日「まちの縁側講座IN三輪地区」が行われました。(主催・三輪地区住民自治協議会・長野市ボランティアセンター・長野県社会福祉協議会)
三輪地区のみなさん、市内外の受講生、県内社協の職員さんなど総勢80名が参加して行われました。講座を開くことになった経緯から講座の日までをふりかえってみましょう。

縁側講座を開いたわけ

三輪地区では、昨年の夏「地区ボランティアセンター」が開設されました。これまで三輪地区には住民の皆さんが気軽に寄れる拠点的な場所がなかったのです。その必要性を感じていた皆さんがセンターを立ち上げました。現在はメンバーが当番をして運営を支えています。センター長の北野さんは、地域の福祉活動に携わった中で、居場所の必要性を感じていたと言います。



センターが出来た事で、ボランティア活動が生まれたり活動



テーブルごとに季節の花が活かされている。おもてなしの心が随所にある三輪地区ボラセン

場所として人が集まるようになりました。また「雪かきに困っている」など様々な相談も舞い込んできました。
このような「場」の持つ力を感じたことは、地区の中に「気軽に寄れる場所がもつとあったらいいな」という思いに発展しました。
そこで、「地域を歩いてみよう」と、まちの縁側講座が開かれることになったのです。

講座の準備では・・・

三輪地区ボランティアセンターの運営ボランティア、地域福祉ワーカー、長野市ボランティアセンターのコーディネーターによって何度も打ち合わせや下見が行われました。下見をするたびにこれまで気づかなかった新しい発見がたくさんあったと言います。思いを持ったヒト、すでに居場所づくりをしているヒト、路地、畑、家の前に置かれたベンチ、お店の中でお茶会、公園でラジオ体操、神社やお寺、個人宅の縁側、元住宅の活用・・・など、人々が緩やかにつながり合うヒト・モノ・コトが発見されたのです。もちろんまちを歩けば課題もみえます。

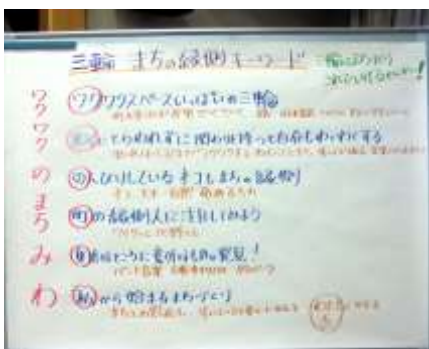


気づいたことは すぐにメモ!



まちの縁側育みプロジェクトながの(以下育みメンバー)が講師となり講座を進めました。

第一部の幻燈会は、小林博明代表が幻燈師を務め、「まちの縁側の心」について2画面スライドでお見せしました。事例をもとに「まちの縁側のイメージ」を膨らませます。第2部のまち歩きでは、育みメンバーもそれぞれのコースに入り一緒にまち探検をしました。第3部はそれぞれが発見したことを出し合い、話を深めるグループワーク。育みメンバーの内山二郎さんがファシリテーターとなり、参加者一人ひとりの発見や思いを大切にして進めるお手伝いをしました。最後に各グループごと発表をして全体共有をすること、これからのまち育てキーワードを紡ぎ小林幻燈師が頭韻要約法によって「わくワクのまちみわ」とまとめました。



レポート!

再び！三輪地区まち歩き！

某自治体協働課の職員さんが「まちの縁側」について知りた
いと視察に来られました。まちの縁側こそ現場で体感する方が
いいと三輪地区の縁側講座でまち歩きした「南コース」へ出か
けました。主（あるじ）とお話しができた二か所のまちの縁側
をご紹介します。



縁側でくつろぐ・・・とわかる!?



手作りの飛行機は友人の作

★ 個人のお宅

玄関先に置かれたベンチに誘わ
れるようにお邪魔しました・・・
もともとお花が大好きという主
（あるじ）は華道の先生。お花が
大好きで庭でお花の手入れをして
いるとお散歩や買い物帰りのご近
所さんが声をかけてくる。お花談
義から四方山話へ・・・そんな時
に腰掛けて話ができたらいいなと
いう思いからここにベンチを置い
たそうです。おしゃべりしている
とまたヒトが通りかかっておしゃ
べりの輪が大きくなった時はお庭
へ。お庭にはテーブルと椅子の他
に手作りの縁台もあって気軽に話
ができるようになっていました。

民生委員の経験もある主（ある
じ）はその経験から様々なコトを
知り気づき、暮らしやこれからの
生き方を考えるきっかけになった
と話してくださいました。また、
お花の教室では、生徒さんのちょ
っとした悩み事を聞いたり相談に
のったりとその場合はまるで「生活
相談所」だったと言います。「若
いお母さんのちよっとした話や愚
痴を聴いて、お母さんたちがほっ
とできればいいと思って。今の時
代は核家族で身近に聴いてもらっ
たりできる相手がいないからどん
なにか一人で悲しい気持ちになっ
たりしているかと思えば。」と、
子育て世代の応援者にもなってい
ます。



★ 自転車屋さん

お年寄りから子育て世代まで様々
な年代の人が遊びに来ています。
特にお年寄りは、話をしたい人が
入れ替わり立ち代り訪れるそう
で、忙しいご主人に代わって奥さ
んが話し相手。「うちのかみさん
は聴き上手!」とご夫婦の絶妙な
関係が素晴らしいです。

「無趣味の会」というのを長年
やっておられたそうです。職種も
年代もさまざま。趣味のない人の
集まりです。忘年会では、それぞ
れの得意を生かして料理をして楽
しんだそうです。そうした人つな
がりのネットワークが功を奏して
か不用品・家庭や事務所が必要
の無くなった家具などを預かる中
継地点のような場にもなっていま
す。サイクルショップがリサイク
ルショップに! 回るお店ですね。
自転車屋さんは「まちの縁が輪・
話・和・回・環・吾」でした。
明治創業の自転車屋さん、今の主
（あるじ）のおじいさんに当たる
人が、とても面倒見の良い人だっ
たとお聞きして、その思いは4つ
の時代を超えて受け継がれてい
るんですね。

個人のお宅と自転車屋さん、ボ
ランティアセンター、パン屋さん、
元住宅をリノベーションしたアパ
ート、雑貨屋さんなど、いろいろ
なヒト・モノ・コトが縁側だとわ
かっていたいただいた町歩きです。
お二人とも、「私たちの市でもこ
うした取り組みをしたい」と、思
い描いていたイメージにぴったり
あったようです。

三輪地区では、十一月下旬にふ
りかえりの会を開き、講座での学
びをどう活かしていくかを話し合
い、今後の活動へつなげていきま
す。
これからの三輪地区の動きが楽
しみですね。

まちの縁側育みプロジェクトながのでは、まちの縁側を伝え広める活動をしています。地域に出かけ縁側の紹介や研修
を行っています。地域の課題を解決したい! 住民主体の活動を推進したい! そんな時こそ縁側講座を開きましょう!

★お問い合わせ先 080-6939-2719 メール matushiroan@gmail.com (西澤)